



建 築

2021年度新規採用職員インタビュー

「人と町を繋ぐ・彩る、ふくしま！」

所属 土木部 建築住宅課

Q. 現在の仕事内容とそのやりがいについて教えてください。

A. 双葉町からの要請に応じ、双葉駅の西側地区に、町営の帰還者向け災害公営住宅及び新規転入者向けの福島再生賃貸住宅を県が代行して整備しています。私は先輩が行う工事監理業務を補助し、町や施工業者と定期的に打合せを行い、工事に遅れが生じないよう工程管理を行っています。

双葉町は震災から10年以上が経ち、町中心部へ帰還できる日を迎えようとしています。その復興の新たな一歩に携わることができ、期待と責任、そして、やりがいを感じています。

Q. 福島県職員として、実現したいこと、目標としていることは何ですか。

A. 新型コロナウイルス感染拡大でオンライン化が急激に進み、首都圏の仕事が地方でもできるようになり、オフィスという概念が変わりました。加えて、福島県内では道路整備が進み、米沢・栃木間の縦貫道等が計画されたことで、県外から来やすい環境が整ってきています。これらインフラを活用し、魅力ある福島県でリノベーション可能な空き家の活用を促進することで、県外からの移住が促され、住民の方が生活をデザインし、彩れる町を創造することができると思います。私は、建築とインフラを活用した新しい住まい方を提案し、福島県を活性化させたいと思っています。



↑ 施工業者の方との打ち合わせ



Q. 県職員を志望した理由を教えてください。

A. 福島には文化や自然など、多くの見所があります。私は生まれ育った福島が好きで、もっとたくさんの方に知ってほしいと思っています。特に、震災による複合災害で地元を離れている方、風評被害の影響で福島から足が遠ざかっている方、その全ての方に福島に来て福島の新たな良さを見ていただきたいです。そのために、建築の分野ができる「住」のサポートで貢献したいと思い、福島県職員を志望しました。



Q. どうやって仕事を覚えていますか。

A. 過去の書類を確認して仕事を覚えることが多く、文書を作成する際は、事業の概要、背景も学ぶ必要があります。相手にどうすれば理解してもらえるかを考え、背景を調べることで知識の習得にも繋がっていると感じます。また、上司のアドバイスにより、分かりやすい文書に仕上げていくなど日々の業務の中で仕事を覚えています。

Q. あなたをキーワードで伝えるとしたら、どんな言葉が思い浮かびますか。

A. 「登山」「カメラ」「一人旅」「映画鑑賞」「コーヒー」

Q. 「登山」について教えてください。

A. 大学から登山を始め、大学時代の夏は3泊4日で北アルプスを縦走して大自然を満喫しました。食料とテントを担ぎどこにでも行ける体力と精神力を身につけました。福島県は山々に囲まれた地域が多いので、山に登りながら、立ち寄った地域の良さを発見していきたいと思っています。